

全校朝会 「世界は変えられる —マララさんの言葉—」

令和7年5月19日（月）

奥沢小学校長 前田 恵里

令和7年度が始まり1か月と半月ほどが過ぎましたが、毎日集中して学習したり、楽しく友達と遊んだりと、充実した時間を過ごしていることが皆さん様子を見てわかります。

5年生は、5月12日～14日に川場移動教室へ行きました。友達と生活を共にし、共に活動することで、協力・責任・挑戦・思いやりなど、川場でしか学べないことをたくさん学び、身に付けて帰ってきました。

私たちは今日もいつもと同じように登校して、友達や先生と一日を過ごしながら勉強をしていますが、これは世界では当たり前のことではありません。争いごとやお金や食べ物がない貧しさ、学校が遠すぎて通えない、自然災害など、厳しい状況や環境の中で生活している子供たちは世界にはたくさんいるのです。

今から4年前、ユニセフが発表した報告書によると、6歳から17歳の子供で学校に通えていない人数は約2億5千万人でした。日本の赤ちゃんから高齢者までの全ての人数は、1億2340万人ですので、日本人全員のおよそ2倍の数になるので、学校に通っていない世界の子供の人数は、ものすごい数です。

今から13年前の2012年、パキスタンの当時15歳の少女マララさんもそのような厳しい日常の中にありました。マララさんはパキスタンという国に生まれました。お父さんが経営する女子学校で勉学に励み、お医者さんになるのが夢でした。そして、パキスタンでは学校に通える女の子が少なく、マララさんは、男の子も女の子も同じように学校に通えるようにするべきだと、考えて行動していました。ところが、その考えに反対する人々は、マララさんを銃で撃ち、左の頭にあたりました。病院の人たちなどが懸命に処置や治療にあたり、その尊い命は奇跡的に救われました。

2013年には、マララさんは国際連合という世界の平和を考える大きな組織・会議の中でスピーチをしました。そこでは、暴力では自分の行動は止められないとして、教育は大切だと改めて訴えました。そして、2014年には17歳でノーベル平和賞を受賞されました。史上最年少記録です。今は27歳になり、今でも女の子が、すべての子どもたちが教育を受ける権利を訴え続けています。

皆さんは当たり前のように学校へ通えていますが、そうではない世界があります。

戦争・暴力によって世界を変えようとする人たちがいます。それは、間違っています。

マララさんは、国際連合の会のスピーチで、このように述べました。



「1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペンが、世界を変えられるのです。」

夢ある未来を創るために、世界を平和にするために、今日もしっかりと鉛筆を持ち、教科書やノートを開いて、集中して勉強しましょう。皆さんには、世界を変えられるチャンスが与えられているのです。このマララさんのスピーチの全部は、5年生6年生でも分かる内容です。ぜひ調べて読んでみましょう。

みなさんには、生まれながらにして「権利」が与えられています。心も体も元気に成長していくために必要な「子どもの権利」です。今日お話しした、「勉強すること」も一つの権利です。その権利を大切にしましょう。あなたに「権利」があるように、一人一人がこの「権利」をもっています。相手も、周りの人もみんな権利をもっています。ですから、友達を、周りの人を大切にすることが大事です。